

特別委員会

市の重要課題について、専門的に調査研究を行うため、必要に応じて設置される委員会です。

地方創生調査対策特別委員会

7月7日（行政視察）

●南魚沼版CCRCについて（南魚沼市）

7月13日

付議事件調査

- 糸魚川市地方版総合戦略の策定・推進について
- 人口対策ビジョンの策定・推進（人口減少・少子高齢化対策、中山間地域再生と移住定住対策等）について

中間報告

本定例会最終日、地方創生調査対策特別委員会の中間報告が行われました。概要は次のとおりです。

7月7日に南魚沼市の南魚沼版CCRC※構想の取組について行政視察を行った。

南魚沼市のCCRC構想は、「南魚沼市版プラチナタウン」構想への取組として、①高い交通利便性、②豊かな、特色ある自然環境、③高度医療を核とした地域医療、④国際大学や北里大学保健衛生専門学院などの教育機関との密接な連携の4点を強みとして、東京圏などの現役を含むアクティブな中高年齢者が元気なうちに移り住み、医療、介護サービスや健康づくりの提供体制が確保された中で、安心して暮らし、地域において新たな産業の創出や雇用を生み出す仕組みづくりとして進められている。

この構想で目標の200戸分400人が移住した場合の50年間の効果や影響を推計、試算した中では、将来的な介護医療の負担があっても、経済効果や市民税収入などでカバーできる見込みであるとのことであった。

構想からビジネス創出や企業誘致の具体化を目指す南魚沼CCRCビジネス研究会の設置や、セカンドライフ塾及び、今年8月末オープンした20社、将来は350社を目指すグローバルITパーク構想などがあり、経済界では肯定的かつ協力的であるとのことであった。さらに、市長は4月から6にかけて、16か所で市民との意見交換を実施していた。推進体制としては、第三者機関として構想の事業計画の作成・推進を担うCCRC推進協議会を中心に、事業推進を図ることとしている。

7月13日の委員会の意見・質疑の中では、

- ・糸魚川市にも三菱総研のようなバックボーンが必要である。いわゆるシンクタンク等外部人材の活用によって、活性化策の模索ができないか。
- ・住所地特例を真っ先に取り入れてやるくらいのモデル地区の提案や交渉をすべきである。

・医療・介護の連携、教育の問題など、CCRC的思想は非常に重要であり、100%のCCRCでなくても、CCRC的な思想で移住・定住促進を図っていくという考え方は必要である。CCRCに取り組むかどうかは、早い時期に方向性を見出していくべきである。

・小さな経済が動くような仕組みづくりを模索して、身の丈に合った事業展開をもっと前向きに取り組んでもらいたい。

・危機感が全然違って、糸魚川市にももっと夢のあるスケール感のある戦略プランがほしい。

などの意見が出されている。

今後の委員会の取組としては、産官学金労言による推進会議での検証や、高校の魅力づくりの方向性、第2回目の交付金認定申請の市としての考え方などを踏まえた論議の中で、この特別委員会を進めていく予定である。



南魚沼市視察の様子

※CCRC…高齢者が健康なうちに地方へ移り住み、生涯学習や社会貢献に取り組みながら暮らす生活共同体。
Continuing Care Retirement Communityの略。